

平成28年12月定例教育委員会 会議録

1 開催期日 平成28年12月22日(木)
開会 午後1時30分
閉会 午後4時04分

2 開催場所 役場 2階 会議室

3 出席者名 委員長 諸橋 志津子
委員 原田 光雄
委員 宮下 静子
委員 不二井 悟史
委員(教育長) 布施 東雄

局長 岡本 伊佐夫
次長 荒木 秀人
係長 朝倉 恵子

4 議 件
なし

5 議事の経過について

事務局の進行により、前会議録の承認を得た後、教育長から、学びの連携部会についての報告、電子教科書についての報告、町就学指導委員会についての報告、教育アンケートについての報告があり、会議録署名員に不二井委員及び布施教育長を指名し、承認されました。

審議に入り、議案第18号及び協議第9号、協議第10号について説明があり、質疑応答が行われ、了承及び決定されました。

次に、1月の定例教育委員会の開催期日を1月26日(木)午後3時と決め、閉会しました。

* 主な質疑・応答等について

12月 定例教育委員会議事録

ー 委員長挨拶 ー

いよいよ本日が2学期の終業式ということで、穴水町の3校ではそれぞれ充実した教育活動ができたのではないのでしょうか。それに伴い事務当局も支援の面に関わって他市町にないようなきめ細やかな学校支援ができていたように思います。

さて2学期は学力調査の件はもちろんなのですが、体力の面でも石川県は優位に立っているという報告が出ています。それも教育現場の頑張りもあるのでしょうし、また教育委員、县市町教育委員会の努力もあるのかと思いますが、あるデータをみると勉強がストレスになっているという子どもが増えてきたというデータが載るようになってきました。

指導要領が改訂されてゆとりが入ってきた時は校内暴力が盛んな時で授業時数を或いは教科をとということでゆとりが入ってきたと思うのですが、ゆとりが入ってきた途端に学力低下が問題になり、そして改訂され学力向上だとなったら一方で学校嫌いが出てきたという事実が出てきているというスパイラル的なことがあります、それをどう調整していくかというこれからの課題があります

午前中町内の保育園へ人権教育に行ってきました。21人の小さな保育園でしたが、保育士さんから「この子たちは目を離すことのできない子どもたちなのですよ」と聞いたのですが、外部から入っていった色々な演技をしたりお話をしたりという関わりの中でその子たちが興味を持って過ごしていたという事実を見た時に、授業改善というところにヒントがそういうところにあるのではないかと、つまりマンネリ化を打破するというまたこの事業はこうではないというスタイルを決めていけば子ども達は勉強しやすいと言いますが、子ども達はそういうものではないのではないかと2、3歳児、4、5歳児を今日見てきて思いました。

来年は酉年ですが、鳥インフルエンザでそれぞれの国が大変苦戦をしていますが、来年に向けての本年最後の委員会となりますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思います。

ー 教育長報告 ー

12月1日に東京学芸大学の数学の先生、西村圭一教授が2日に県教委に招聘されておりまして、昨年も来ていただいたのですがその前の日に穴水町に来て穴水の学校をもう一度見てお話をすることになっていただきました。両小学校の算数の授業、中学校の数学の授業を見ていただきました。たいへん慌ただしい中、その後穴水小学校で3校の先生方を集めて指導も含めて講演をしていただきました。先生が授業を見た感想では穴水の子供達はたいへん優秀だということが第一声にありました。先生方の授業も授業改善と学力テストの結果もふまえてやられているのですが、先生自ら北國新聞の矢印のデータを持ってきて、こういう生徒ですので結論から言うと学問的に正しく子どもにアプローチして既習の根拠を元にして新しい問題を解かせる、考えさせる授業をしなければならない、実際に先生方の授業を見ていると子ども達がつぶやきながら素晴らしいことを言っているのを見過ごしている場面が沢山ありますと指摘をうけました。

私は以前の話の中で、「あの子ども達が先生を育てているのですよ。」と言ったら笑っておられましたが、そういうことがあるのと、もう少し程度の高い問題、発展的な問題をやらせている中にも優秀な子ども達は簡単に解いて遊んでいるということがあるので、机間巡視をしながらさらに個に応じた問題を与えてやらせるというような授業をしていかなければ結局せつかくある能力がなかなか伸びない子もいるのでないか。試験の点数のピークがありますよね、山のそののどこを目標にして授業計画を立てているのかということでしたので、ピークのところにあてるのではなくて上の方のちょっと下がっているその辺の生徒を目標にして、ピークを上の方にずらしていくような手立てを意識的にやらないと駄目ですよという結論でした。あとは教育の専門家ですので授業一つ一つの声掛けやら色々なデータを示しながら話をしてくださったのだらうと思います。中身の概略的なものは小学校からデータとしてございますが、そのことによって国語を超えて数学が小学校も中学校も伸びている現実があるのかなというふうに見ています。先日評価問題を県が一斉にやっているのですが両小学校も67~8点、中学校は70点を超えていてデータ比較はしていないのですがおそらく中学校はトップでしょうという評価をいただきました。今の2年生は良いというベースがあるのでそれを壊さないようにということと新聞にも出ていましたが国語が全国的に長文の理解や表現力が落ちているということがある中でこれから何をどうしていかなければならないかということを考えていかなければならないし、アクティブラーニングと称して子ども達にペアで話し合いをさせたりグループで話し合いをさせたりして問題を解く場面がたくさんあるのですが、そこで子どもの発表の語彙が少なく、そこが国語のこれから大学入試でも改革されるのですが一番の問題になるのではないかなというように思っています。高校入試も長文の問題がたくさん出てくるようになるだろうと思っています。今年の高校入試の問題から文字のポイントが10ポイントになり非常に小さくなります。ということは用紙の大きさが一緒で活字が小さくなるということはそれだけ文字量が多い問題になるのではないかなと思っています。中学校には学校の定期テストからポイントの小さい問題を作ってやっておき本番に慣れておかないとなかなか読み込ませないことになってしまうよということをお話しておきましたが県は先々を見て対応していくという現実があります。先程委員長のお話の中にも問題提起されていましたが、それでいいのかということがある一面で考えられることではないかなと思っています。

電子教科書についてもネット等が出ていましたが20年度から国はできるところはやりなさいという感じで、しかしまだ紙媒体の教科書が正式の教科書で、電子教科書はあくまで電子であって名前だけで教材です、当分の間は併用でやっていくという形になるのだけど、平成20年度から電子教科書が無償で配布されるやも、ただしできる市町村はですが。大変な時代になっていきます。まず英語からやっていくのが文科省の方針ですが、結局発音やそういうものがデジタルで入っていますので子どもの理解が早まるというのが根拠です。

2日に町の就学指導委員会が開かれまして、今年も40数名の子ども達について色々審議をいたしました。そして就学指導委員会の委員長である丸岡先生から諸橋委員長あてに答申が出ておりますので、そこで話合われたことや現在そこから宿題をもらって事務局で取り組んでいることに対して後の方で説明をしていきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

それからアンケートをとると言う話がありました、そのたたき台として示したものが一枚入っております。この中身についてもこれでいいのかどうかということをお場で検討していただきたいというのが私からのお願いです。

以上です。

諸橋委員長 はい、ありがとうございました。皆さん、教育長のお話の中で何かありましたらご質問ください。ございませんでしょうか。

— 議事 —

事務局長 議案第18号「障害のため教育上特別の支援を要する者について（答申）」説明

朝倉係長 （詳細説明）

（途中省略）

原田委員 支援員の人はプロフェッショナルなわけですから、こういうところが欠けていてこういうふうになればよいのではないか、このように支援していけばとある程度の見通しをつけて支援していく、その場その場だけで対応してはだめですよね。支援の仕方を改善したりしては6年生になった時にこういうこともあったなというふうになればいいですね。

教育長 （途中省略）

ひとりひとりの困り感に対応した支援を講じていなければ中学校に進学した時にそれぞれの困り感が出ては友だち関係が作り上げられなかったり不登校になったりということが出てくる率が高いので、小学校の低学年の間に適切な支援や指導をできる体制を作らなければなりませんし、することが必要になってきます。それには教師も支援員も学習しなければなりません。保護者が納得して正しい診断を受けようとする体制を作り上げていくことが大切かと思えます。

諸橋委員長 今までは、「うちの子は元気だから」と済ませてきたところがありますね。しかし保育所、幼稚園の幼児教育の時に早めに手立てをしていけばまた違うかもしれません。

教育長 今、認定こども園になりましたのできちんと幼児教育をなさいという予算がおりにきていますが、まだまだ軌道にはのっていないのが現状です。

諸橋委員長 では来年度の支援員の数は。

事務局長 現状のままです。

教育長 やはり親の意識があって適切な支援を受けて受験をクリアしていった生徒もいます。親の気づきは本当に大切です。

(途中省略)

朝倉係長 親の気づき感は以前より向上してはきています。教育委員会では2月に保育所の年中児を対象に「就学のつどい」というものを行っています。この中では特別支援学校のことや特別支援学級のこと、またポーター教室のこと等もお話しており、困り感を取り出してもらってその子その子に合わせて手厚く対応してもらおうことだよとお話しています。

諸橋委員長 他にありますか。

(途中省略)

諸橋委員長 議案了承いたします。
では次に協議です。お願いいたします。

事務局長 協議第9号第10号「区域外就学について」説明

諸橋委員長 では次にその他です。いじめ・不登校からです。

朝倉係長 (詳細説明)

(途中省略)

諸橋委員長 私たち教育委員にとってもこれは大きな課題です。
委員の皆さん、何かございませんでしょうか。

諸橋委員長 ではその他の2番目、小中学校の教育アンケートについてです。

事務局長 (詳細説明)

宮下委員 問3の「必要がないと思われるもの」というところですが、この中に必要のない支援員配置はあるのでしょうか。問い方を柔らかくすればいかがでしょうか。

事務局長 私たちはどの支援員も必要があると配置していますが。

教育長 「ほかに」にすればいいのでは。

諸橋委員長 柔らかくて良いと思います。またアンケートの内容や問い方も柔らかくて良いと思います。

宮下委員 反対に、今なぜこんな簡単なアンケートをとられないのでしょうか。

諸橋委員長 問7のところでは中体連のことも直接保護者から意見を聞いていませんので意見が聞けて良いのではないのでしょうか。

(途中省略)

宮下委員 であれば問4も自由記入欄が必要では。

不二井委員 私も最初は自由記入欄かなと思いました。問3は無くして全て自由記入欄かなと思いました。

諸橋委員長 問3を削除して自由記入欄にすれば「理科支援員が必要」とか書けますね。

(途中省略)

諸橋委員長 私はこのアンケートを見ていまして趣旨の部分がとてもわかりやすく平易で良いなと思いました。

原田委員 将来の穴水町の教育のあり方を視点とするならば保育所の保護者にも広い将来的な意味で意見を聞けばどうだろうかと思います。アンケートの活かし方も違って来るかと思います。

事務局長 将来的にはそのような形を取らなければならないでしょうが、今回は小中学校を通じてアンケートを取らせていただければいいかと思います。

(途中省略)

宮下委員 問7ですが、1・2・3は心理的な部分の問いで、4・5・6は現実的な部分の問いですが、それを一緒に問って、まして回答はひとつとなると難しいですね。

(途中省略)

原田委員 どの方法が一番ベターなのかということです。

(途中省略)

手立てを考えなければなりませんね。

事務局長 少しでもあのようなことが繰り返されないように協議検討ができればと思っています。

諸橋委員長 よろしいでしょうか。

(途中省略)

諸橋委員長 では次にその他3番目、小中学校の卒業式についてです。

事務局長 (詳細説明)

諸橋委員長 だいたいそのような日程になるかと思っていてください。では、1月の行事予定です。

荒木次長 (1月行事予定について説明)

諸橋委員長 他に付け加え等ありますか。
では次回の定例教育委員会の日程です。

(日程調整)

諸橋委員長 では、次回の定例教育委員会は、1月26日(木)午後3時から開催いたします。よろしくお願
いいたします。他にありませんか。

宮下委員 行事予定の中に学校の公開授業等はいれられないのですか。

朝倉係長 極力わかっている範囲で入れておりますが、学校からの行事予定があがってくるのが月の10
日過ぎになります。できる範囲で入れるようにいたします。

諸橋委員長 他にございませんでしょうか。

不二井委員 ご報告がひとつあります。私の職場の方からのお話ですが、柔道の授業中のことです。
(詳細説明)

事務局長 (詳細説明)

朝倉係長 (詳細説明)

諸橋委員長 学校でも当事者の方ともお話ができていますね。
では、他にはありませんでしょうか。
以上、これで定例教育委員会を終わりたいと思います。本日は、ありがとうございました。

以上

穴水町教育委員会会議規則（昭和 31 年教育委員会規則第 2 号）第 15 条第 2 項の規定により、署名する。

会議録署名員

教 育 委 員

教育委員（教育長）
